

令和3年度スポーツ庁委託事業

Special プロジェクト 2020（全国的な祭典の実施事業）
特別支援学校「みんなが主役」きらめき事業
成果報告書



令和4年3月
徳島県教育委員会

本報告書は、スポーツ庁の Special プロジェクト 2020 委託事業として、徳島県が実施した令和3年度 Special プロジェクト 2020 (Special プロジェクト 2020 全国的な祭典の実施事業) の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

東京パラリンピック競技大会が開催され、さまざまなパラスポーツが各地で盛んに取り生まれ、メディアにとりあげられました。障がい者スポーツも注目され、裾野を広げていくために、障がいのある人がスポーツを楽しめる環境の整備が大変重要になっています。

また、オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあり、各地で文化プログラムが開催されるなど、気運の醸成が図られ、障がいのある人の芸術・文化活動が一層推進されました。

こうした中、平成 29 年度より 3 年間取り組んできた Special プロジェクト 2020 体制整備事業での成果を生かしつつ、さらなる活動の充実と子どもたちが活躍できる場や機会の創設を目指し、昨年度より新たに Special プロジェクト 2020 全国的な祭典の実施事業に取り組みました。

具体的には、スポーツ分野において、実会場とオンラインを活用したハイブリット開催とするとともに、考案した「ターゲットボッチャ」による新しい形でのスポーツ交流やスポーツ大会を開催いたしました。また、重度障がい者も楽しめる「ボッチャ」を各特別支援学校で実施し、ボッチャを通じた交流及び共同学習を推進するとともに、カーリング等のニュースポーツにも取り組み、広く地域との交流を深めるための活動を継続して展開いたしました。さらに、徳島視覚支援学校では、サウンドテーブルテニスを実践し、徳島聴覚支援学校では、卓球部の活動におけるスキルアップを図るなど、それぞれの特別支援学校のニーズに応じたスポーツ振興を図りました。

また、芸術・文化活動においては、専門家との連携による新たな技術を取り入れたデジタルアート作品づくりや地域との交流による共同制作作品づくりにも取り組み、その成果については、スーパーマーケット等と連携した「地域での作品展」へ展示や、世界遺産登録を目指している「四国八十八箇所霊場と遍路道」の県内霊場札所における、特別支援学校の児童生徒によるお接待活動の中での小物作品の配布や展示をとおして、障がい者アートの発信を行ってきました。

さらに、例年開催している県内全ての特別支援学校のアート作品が集結する「とくしま特別支援学校きらめきアート展」を、今年度は実会場とオンラインのハイブリット開催を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、WEB 開催のみといたしました。今年度についても、隣接する他県へ参加を呼びかけることで四国規模のアート展へと拡充することができました。

事業の実施にあたり、県内の全ての特別支援学校の協力を得て活動に取り組むとともに、徳島県障がい者スポーツ協会、徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター、芸術専門家、経済関係者、教育関係有識者、県ダイバーシティ推進課等の参画により実行委員会を組織し、活動内容の検討を行いました。

本報告書は、上記内容を実践した成果を検証するために、作成したものです。多くの方々に御覧いただき、忌憚のない御意見、御助言を賜れば幸いです。

最後になりますが、本事業の実践にあたり、御指導、御協力をいただいた、関係機関の方々や各特別支援学校の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

令和 4 年 3 月

令和3年度 Specialプロジェクト2020（全国的な祭典の実施事業）
特別支援学校「みんなが主役」きらめき事業
成果報告書（目次）

Specialプロジェクト2020（全国的な祭典の実施事業）
特別支援学校「みんなが主役」きらめき事業

1	事業の目的・概要	2
2	県立特別支援学校の概況	3
I 実行委員会		
1	実行委員会概要	5
2	検討状況	
	第1回実行委員会	6
	第2回実行委員会	6
	第3回実行委員会	7
II 活動報告		
1	スポーツ活動	
	(1) 第1回特別支援学校対抗ボッチャ大会	9
	(2) とくしまスポーツ交流大会	10
	(3) 体育・スポーツ指導者養成講習	11
	(4) 特別支援学校におけるニュースポーツの実践	12
	(5) 視覚障がいのある児童生徒、聴覚障がいのある児童生徒の スポーツ交流会	15
2	芸術・文化活動	
	(1) 専門家との連携とアート作品制作	16
	(2) 作品制作をとおした地域との交流	20
	(3) 地域におけるアート展の開催	21
	(4) 四国八十八ヶ所霊場札所でのお接待活動における作品の展示 と配布	24
	(5) アート展の開催	26
3	活動の成果と課題	30

【徳島県】令和3年度Specialプロジェクト2020全国的な祭典の実施事業 (成果報告概要)

現状と課題

- 障がいのある人がスポーツを楽しむことのできる環境整備の充実
- スポーツのみならず，障がいのある人の芸術・文化活動の推進
- コロナ禍による各種大会やイベント等の中止（活躍の場の設定）

課題解決に向けた取組

- 特別支援学校における障がい者スポーツ活動の充実
- 専門家との連携による新技術を取り入れたアート作品制作
- 実施方法の工夫による子どもが活躍できる場や機会の創設

事業実行委員会の設置

※年間3回開催

徳島県内のスポーツ・文化関係者（行政，学校，スポーツ団体，文化団体，経済団体，有識者等）から構成

- 事業の進捗状況管理及び取組評価
- 開催する祭典の企画や運営に対する助言
- 今後の展開についての検討



【徳島県】令和3年度Specialプロジェクト2020全国的な祭典の実施事業 (成果報告概要)

「スポーツ活動」の取組

各特別支援学校における ニュースポーツの取組

- 「ボッチャ」等の普及促進
- ニュースポーツをととした学校間及び
地域交流の推進



地域の中学校とボッチャ活動



大学生とカラーリングで交流

体験的な活動により相互理解が促進
ニュースポーツにおける指導者への
サポート体制の充実

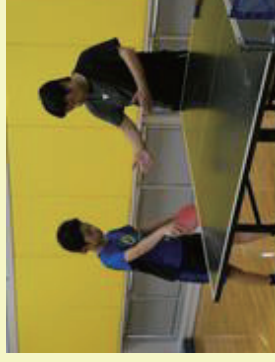
視覚障がい・聴覚障がいのある 児童生徒のスポーツ活動の振興

- サウンドテニス指導



**生涯スポーツへの
つながりに期待**
他機関との連携に
よるスポーツ活動
の計画・検討

- 専門家による卓球指導



**生徒の技術力が
レベルアップ**
目標となる大会や
イベント等の企画・
開催が必要

【徳島県】令和3年度Specialプロジェクト2020全国的な祭典の実施事業 (成果報告概要)

「文化・芸術活動」の取組

専門家と連携したアート作品制作

- 「VRアート」や「ピクトグラムメーカー」等のデジタルアートに挑戦



VR落書きにチャレンジ



ピクトグラム制作

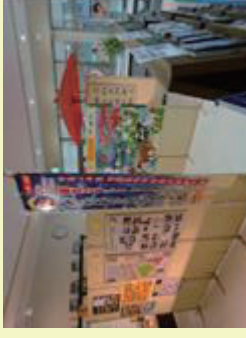


アイビスペイントで塗り絵

生徒の興味関心が集まる魅力的なテーマ
専門家と連携を図り、幅広い制作活動を展開していくことが必要

地域におけるアート展等の開催

- 地元企業との連携による作品展の開催



- 四国霊場札所での作品展示と作品配布
(5校実施)



地域への理解啓発
自己有用感の向上
特別支援学校の取組を県内外へ発信

【徳島県】令和3年度Specialプロジェクト2020全国的な祭典の実施事業 (成果報告概要)

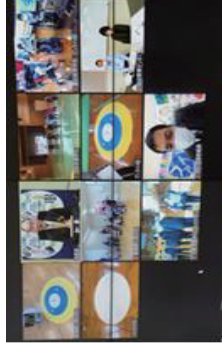
コロナ禍におけるオンラインを活用した新たな取組 (子どもが活躍できる場や機会の創設)

「スポーツ活動」の取組

- オンラインと実会場のハイブリット開催
- 「特別支援学校対抗ボッチャ大会」や「とくしまスポーツ交流大会」の開催
※徳島県の近隣県からも大会参加



ボッチャ部門



ターゲットボッチャ部門

「文化・芸術活動」の取組

- WEB会場における特別支援学校「きらめきアート展」の開催

- 四国四県から467点の作品が集結
- 総アクセス数30,585回



障がいのある人々が、スポーツ活動や芸術・文化活動を生涯をとおりて楽しむことのできるレガシーとして、事業成果を活用

共生社会の実現

Special プロジェクト 2020

(全国的な祭典の実施事業)

特別支援学校「みんなが主役」きらめき事業

1 事業の目的・概要

本県において2017年度から実施しているSpecialプロジェクト2020体制整備事業により培ってきたネットワークを活用して、特別支援学校が地域の障がい者のスポーツ活動や芸術・文化活動の拠点となった広域な祭典を実施することを目的とし、本事業を推進する。

そのため、スポーツ活動においては、特別支援学校の生徒をはじめ地域住民や徳島県に隣接する他県も参加できる、障がい者スポーツやニュースポーツを取り入れたスポーツ大会等の祭典を開催する。また、各特別支援学校においては、地域と密着したボッチャ交流会やニュースポーツ交流会を継続して実施する。さらに、「体育・スポーツ指導者養成講習」を実施し、特別支援学校を拠点とした障がい者の体育・スポーツ活動の充実を図る。

芸術・文化活動においては、専門家等との連携による新たな技術を取り入れた作品制作による児童生徒の芸術的才能の開花を推進するとともに、地域の文化遺産である四国霊場札所での作品展示を含めた「児童生徒のアート作品展」を開催し、障がい者の芸術・文化活動に対する理解啓発を図る。

なお、本事業の実施にあたっては、定期的な実行委員会の開催により評価と改善を行うとともに、コロナ禍における祭典の開催方法について検討する。

Special プロジェクト 2020

～障害の有無にかかわらず、すべての人が笑顔になる祭典～

趣旨等

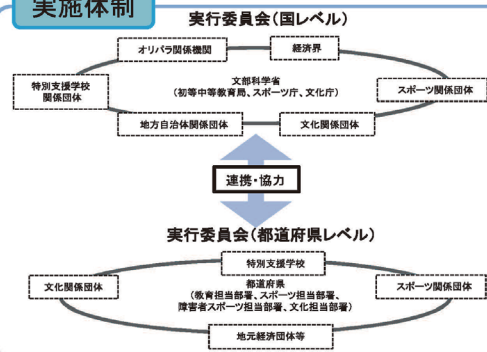
●2020年からの新たな特別支援教育(学習指導要領改訂)を契機に、**全国の特別支援学校で、スポーツ・文化・教育活動の全国的な祭典を開催**

- ・「ほんもの」のスポーツ・芸術に触れ感動を共有する機会
- ・障害の有無等を超えて誰もが心を触れ合う機会
- ・地域住民の主体的な参画

事業内容

- ①祭典の企画立案等
国レベルの中央実行委員会を開催し、事業内容を具体化するとともに、関係機関とのネットワークを構築し、ロゴマーク作成やプロモーション等を行う。
- ②各地での祭典開催のための体制整備及び情報収集
各都道府県・地域において地域実行委員会を開催し、域内の関係機関のネットワークを構築するとともに、特別支援学校で行われる運動会、文化祭に関する情報収集を行う。
- ③祭典に向けたモデル事業の実施
全国的な祭典の開催に向けた具体的な取組の先進事例を蓄積するため、モデル事業を実施する。
- ④特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業の実施
特別支援学校等における体育・運動部活動等を充実するとともに、特別支援学校等を拠点とした障害者の地域スポーツクラブの設立を支援する。
- ⑤特別支援学校を対象とした全国的なスポーツ・文化大会の開催支援
全国の特別支援学校のスポーツ・文化活動の充実を図るため、特別支援学校のスポーツ・文化活動の成果を披露するための全国大会の開催を支援する。

実施体制



効果

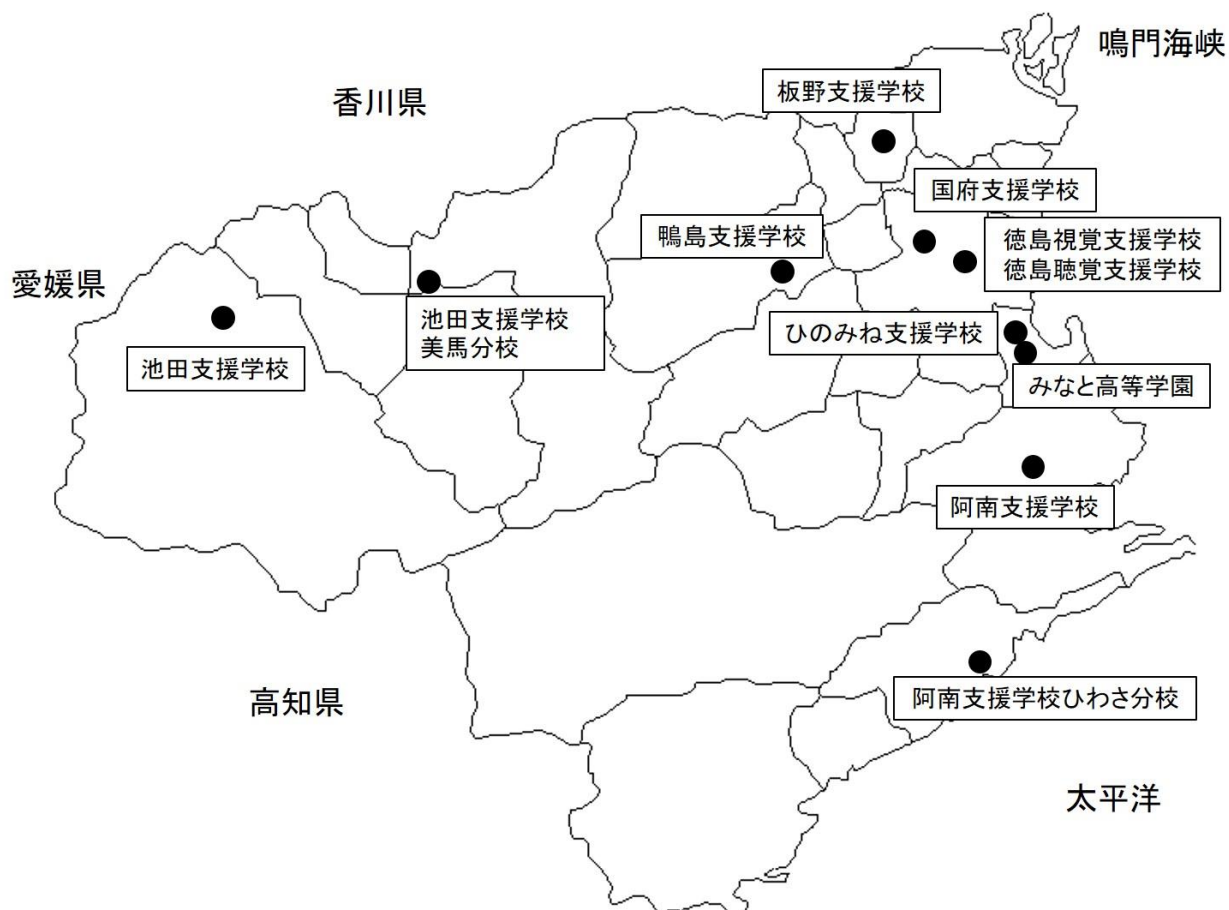
- ・地域の誰にでも開かれた次世代の「共生学校」を創造
- ・東京大会のレガシーとして、障害の有無や年齢・性別を超えた、地域の共生社会の拠点づくり

2 県立特別支援学校の概況

徳島県内には、県立の特別支援学校が 11 校設置されており、概要は次のとおりである。

(R3.5.1 現在)

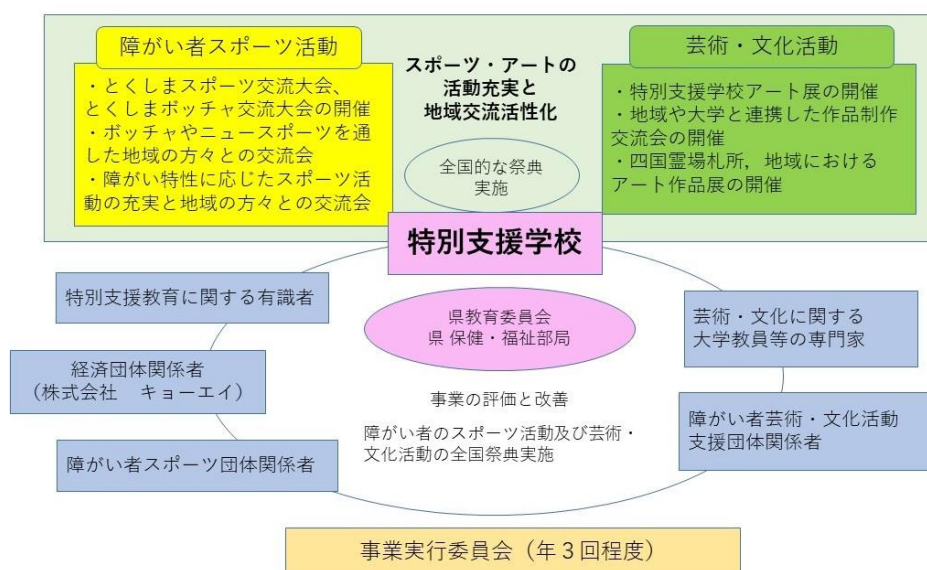
	学校名	所在地	学部 生徒数	障がい種
1	徳島視覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高 22 名	視覚障がい
2	徳島聴覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高 41 名	聴覚障がい
3	板野支援学校	板野郡板野町	小中高 191 名	肢体不自由、病弱、知的障がい
4	国府支援学校	徳島市国府町	小中高 288 名	知的障がい
5	鴨島支援学校	吉野川市鴨島町	小中高 19 名	肢体不自由、病弱
6	ひのみね支援学校	小松島市中田町	小中高 53 名	肢体不自由
7	阿南支援学校	阿南市上大野町	小中高 117 名	知的障がい
8	阿南支援学校ひわさ分校	海部郡美波町	小中高 16 名	知的障がい
9	池田支援学校	三好市池田町	小中高 75 名	知的障がい
10	池田支援学校美馬分校	美馬市美馬町	高 29 名	知的障がい
11	みなと高等学園	小松島市中田町	高 82 名	知的障がい、病弱



I 実行委員会

1 実行委員会概要

(1) 事業実施体制



(2) 委員会の目的

スポーツ庁の委託事業「Special プロジェクト 2020」全国的な祭典の実施事業を実施するにあたり、特別支援学校「みんなが主役」きらめき事業（Special プロジェクト 2020 全国的な祭典の実施事業）実行委員会を設置し、特別支援学校が地域の障がい者の芸術・文化活動及びスポーツ活動の拠点となり、開催する祭典のあり方について検討するとともに、本事業の評価を行う。

(3) 検討事項

- ・徳島県内のスポーツ・文化関係者（行政、学校、スポーツ団体、文化団体、経済団体、有識者等）から構成し、徳島県内の関係機関のネットワークを構築する。
- ・地域の障がい者スポーツ活動及び芸術・文化活動の拠点としての特別支援学校の在り方について検討する。
- ・開催する祭典の企画や運営とその評価、今後の展開について検討する。

(4) 委員名簿（敬称略）

区分	所属・職名	氏名	備考
学識経験者	徳島文理大学人間生活学部児童学科准教授	富樫 敏彦	委員長
芸術専門家	四国大学生生活科学部人間生活科学科 デザインコース准教授	上野 昇	
スポーツ	徳島県障がい者スポーツ協会次長	篠原 崇	
芸術団体	徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター 総括専門企画員	西木 正	
経済団体	株式会社キョーエイ人事部長	西村 康弘	
行政	徳島県ダイバーシティ推進課 課長	大岡 士郎	
	徳島県教育委員会特別支援教育課 課長	田中 清章	

2 検討状況

(1) 第1回実行委員会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面開催とした。

(2) 第2回実行委員会

- ア 日時 令和3年11月26日(金) 15:00~16:30
イ 場所 徳島県庁 403 会議室
ウ 出席委員 7名
エ 概要 委員長選任、
事務局による事業の進捗状況説明、
意見交換



オ 委員からの主な意見等

(ア) 全体として

- ・ コロナ禍の厳しい状況の中、様々な工夫を行いながら取組を継続できていることに感心する。
- ・ 国府支援学校整備で、ダイバーシティ棟ができる。卒業後もスポーツに取り組める環境として、卒業生も来ることができるような生涯学習につなぐことができる仕組みを作る。
- ・ 障がいの有無に関わらず活躍できる社会を目指して取り組む。

(イ) スポーツ活動

- ・ 「第1回特別支援学校対抗ボッチャ大会」は、教育委員会と障がい者スポーツ協会が協力して開催した大会、つまり、教育と福祉が連携した事業であり、このような大会を続けていくことができれば、地域のスポーツクラブや障がい者スポーツクラブへとつながっていくのではないかと思った。
- ・ 大会に向けて、校内で練習に取り組み、成果を披露する場所があるということは動機付けになる。
- ・ リアルとオンラインのハイブリットはとてもすばらしく、将来在宅の障がい者も一緒になって楽しめるようなスポーツ競技となってくる。
- ・ 同年代の小学校や中学校だけでなく、市の職員や大学生とのスポーツによる交流が広がっていったことは、大きな成果である。

(ウ) 芸術・文化活動

- ・ 「きらめきアート展」はよい取組だと思うので、県外の方にもっと周知したほうがよいと思う。一つの方法として、「地域での作品展」をもっとゴールデンウィークなどの早い時期に開催し、県外から来るお客様にアピールできればよいと思う。時期という要素も考えていく必要がある。
- ・ デジタルアートについては、鴨島支援学校では、新しい取組として、オリンピック・パラリンピックに合わせて「カッティングシートを使ったピクトグラム作り」に取り組んだ。また、徳島聴覚支援学校が四国大学に来校して、VRゴーグルとiPadを用いたVRアートに取り組む。徳島聴覚支援学校の卒業生がゼミに入ったので、そのゼミ生にもサポートに入ってもらおうことを予定している。

- ・ 「作品制作をとおした交流活動」では、作品のやりとりや両校をオンラインでつないで行うということは、新しい形での交流活動であると感じた。

(3) 第3回実行委員会

- ア 日時 令和4年3月10日(木) 15:00~16:30
- イ 開催方法 Zoomを使ったオンライン
- ウ 出席委員 富樫委員長ほか5名
- エ 概要 今年度取組の報告及び最終評価、今後の取組について

オ 委員からの主な意見等

(ア) スポーツ活動

- ・ 徳島県障がい者スポーツ協会が課題としている「若年層へのスポーツ促進」について、この事業が進めてくれた。このような取組を継続していくことが、特別支援学校卒業後のスポーツ活動につながると感じた。
- ・ 障がい者スポーツの機運が高まってきているので、このようなスポーツ大会ができればよいと思う。

(イ) 芸術・文化活動

- ・ 今回初めてZoomによる授業を行ったが、リモートでもやっていくことができると感じた。
- ・ コンピューターを使ったものが広く普及してきており、障がいのある子どもたちも比較的使いやすい。どんどん活用して、広がっていくとよいと思う。
- ・ 「きらめきアート展」を見て、HP掲載用作品の写真の撮り方について担当者にヒントを与えることができるようなものがあれば、作品を見やすくすることができると感じた。

(ウ) 今後の活動について

- ・ 特別支援学校で行った活動を卒業後にどうつなげていくのか、継続させていくのかを見据えた上で、特別支援学校におけるスポーツ活動の在り方を考えてほしい。
- ・ 今年度実施したスポーツ大会や指導者の派遣については、徳島県障がい者スポーツ協会としても、協力していきたい。
- ・ 物理的に人が集まって行うのではなく、WEB開催やオンライン指導など、予算がなくてもできる事業を考えていく必要がある。

II 活動報告

1 スポーツ活動

(1) 第1回特別支援学校対抗ボッチャ大会

- ア ねらい 東京 2020 パラリンピック競技大会開催年を機に、ボッチャの更なる普及を促し、生涯スポーツへつなげるとともに、スポーツ活動をととした各学校間や地域との交流を促進する。
- イ 日 時 令和3年11月16日(火) 10:00~15:00
- ウ 場 所 吉野川市民プラザ
各特別支援学校 (Zoomを使用して各会場を中継)
- エ 参加者 県内特別支援学校8校 生徒47名
障がい者福祉施設3施設 利用者18名
- オ 内 容 「ボッチャの部」
現地会場にて、徳島県ノーマピック・ボッチャ大会競技規則に則り、団体戦によるトーナメント戦で勝敗を競い合った。また、試合コート以外の他に交流用コートを設け、学校間による交流を図った。



「ターゲットボッチャの部」

ボッチャの用具(ターゲットマット)を使用した独自ルールの得点競技をトーナメント戦で勝敗を競い合った。また、オンラインで各学校と現地会場をつなぎ、開会式から閉会式まで、現地会場とオンライン会場で大会の様子を共有しながら実施した。



カ 成果等

現地会場とオンライン会場を設けて開催したことにより、様々な大会や交流学习が中止となる中、オンライン会場では、時間や距離等の制約を受けることなく参加できること、慣れた場所や道具を使って活動ができる等の利点から、コロナ禍や障がいの程度に関係なく、誰もが大会に参加しやすい環境を設定できた。また、特別支援学校だけでなく、地域の福祉施設ともつながることができ、卒業生を含めた利用者の方とも、スポーツをととした交流の機会を設けることができた。

現地会場では、日頃の練習の成果を発揮する場や学校間での交流の機会となるだけでなく、地域の小学校から大会の見学と応援に駆けつけてくれるなど、現地会場ならではの大会の雰囲気を感じながら競技をする経験は、参加した生徒にとって貴重な体験となったと

考える。大会終了後には、「次は絶対勝つ」や「来年はいつあるんですか」などといった活動への意欲の向上やスポーツの楽しさを感じさせる感想が聞かれた。

また、本大会では、徳島県障がい者スポーツ協会と連携して大会を開催することができた。関係機関とのつながりは、今後、児童生徒の卒業後の生涯スポーツとしての基盤づくりにつながることを期待される。今後も関係機関との連携した大会の開催や特別支援学校及び地域における障がい者スポーツの充実に向けて取り組みたい。

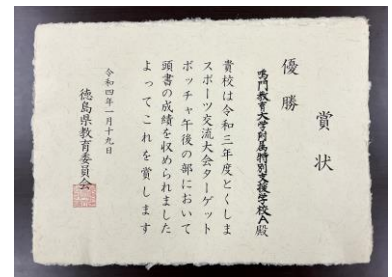
(2) とくしまスポーツ交流大会

- ア ねらい バスケットボールやニュースポーツ活動を取り入れたスポーツの祭典を開催し、各学校間及び地域住民等との交流を深める。また、自作の応援旗の掲示やスポーツ会場での作品展示など、スポーツとアートが融合した祭典を開催する。
- イ 日 時 令和4年1月19日(水) 10:30~15:00
- ウ 場 所 北島北公園総合体育館
各特別支援学校 (Zoomで各会場を中継)
- エ 参加者 県内の特別支援学校9校29チーム 児童生徒109名
県外の特別支援学校2校2チーム 児童生徒7名
- オ 内 容 昨年度のプレ開催を機に、今年度は第1回大会の開催に向けて、現地会場での「ボッチャ」、「バスケットボール」及びオンライン会場での「ターゲットボッチャ」の実施を計画していた。しかしながら、開催直前での新型コロナウイルス感染症の急拡大により、感染予防の観点からやむなく現地会場での開催を中止とした。大会当日は、オンラインで各会場を中継しての「ターゲットボッチャ」を午前・午後の部に分けて実施した。



- カ 成果等 昨年度、肢体不自由の子どもたちを中心とし、オンラインのできるスポーツ活動として考案した「ターゲットボッチャ」が、障がい種別に関係なく、知的・肢体・病弱の各学校から9校14チームと多くの参加があり、コロナ禍におけるオンラインスポーツとして定着が図られてきたことがわかった。また、四国内の特別支援学校からの参加もあり、県内参加校からは「徳島にいながらにして、県外チームとの交流も行うことができ、新鮮だった」や県外参加校からは「オンラインでこんなやり方があることを初めて知った」、「昨年参加した時にターゲットボッチャを知り、今年度交流でやってみました」などオンラインスポーツへの前向きな意見が聞かれた。
- 今後は、運営面の改善やオンラインで実施可能なスポーツ活動についての検討を行い、取組の充実と拡大を図りたい。
- なお、現地会場での開催が中止となったため、スポーツ会場での作品展の実施はできなかったが、各校自作の応援旗をオンライン会場で掲示するとともに、記念品の藍染めハンカチや手漉きの竹和紙

で制作した賞状など特別支援学校生徒の作品を大会に取り入れた。スポーツ大会にアート活動を取り入れることにより、より多くの児童生徒が大会に携わり、活躍する場を設けることができた。また、スポーツ活動とアートの融合は、特別支援学校における取組の紹介や啓発の機会につながることを期待できる。



(3) 体育・スポーツ指導者養成講習

ア ねらい 特別支援学校でのスポーツ活動の充実をめざし、ボッチャ等ニュースポーツ及びアダプテッドスポーツ等の更なる普及・促進を図る。また、各特別支援学校における体育・スポーツ活動の指導の充実を図るとともに、スポーツ活動をとおした交流及び共同学習、各種スポーツ大会等への参加を促進する。

イ 実践内容

(ア) 「ボッチャ」指導者養成講習①

日時 令和3年10月7日(木)～12日(火)
場所 みなと高等学園体育館
参加者 みなと高等学園教員及び生徒延べ40名
内容 徳島県ボッチャ協会より講師を招聘し、講習会を実施。教員だけでなく、生徒も交えて、基本的技能や戦略の指導、実践をとおした指導を受講した。参加した生徒からは、「ボッチャが楽しい」、

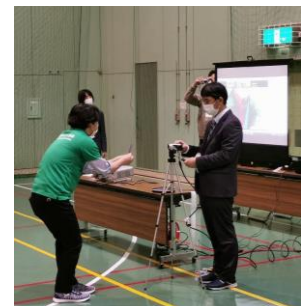


「これからも続けたい」などの意見が聞かれた。専門的知識を持った講師から指導を受けたことで、興味関心が一層高まり、今後の活動や授業への意欲、大会に向けての動機付けにつながった。

(イ) 「ボッチャ」指導者養成講習②

日時 令和3年12月17日(金) 16:00～16:45
場所 各特別支援学校 (Zoomを活用したオンライン研修)
参加者 特別支援学校教員 10名
内容 「ボッチャ」指導者養成講習

徳島県障がい者スポーツ協会と連携し、徳島県ボッチャ協会より講師を招聘。公式ルールの説明や投げ方の基本、戦術に関すること等学校で実践する時の指導のポイントをデモンストレーションを交えながら指導をしていただいた。参加者からは、「早速大会に向けて取り組みたい」や「正式なルールを専門の方から聞くことができ、理解が深まった」などの意見が聞かれた。



(ウ) 「カローリング」指導者養成講習

日時 令和4年1月19日(水)

場所 阿南支援学校体育館

参加者 阿南支援学校教員23名

内容 徳島県カローリング連盟より講師を招聘し、実施。競技ルールや実践をとおした指導を受けた。初めてカローリングを経験する参加者も多かったが、「ルールも簡単でわかりやすい。ぜひ授業で取り組みたい」、「実際に体験してみて、ルールの工夫などで、様々な実態の子どもたちが楽しめると感じたので、もっと学びたい」などの意見が聞かれた。



(4) 特別支援学校におけるニュースポーツの実践

※令和3年度については、多くの学校において新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から交流及び共同学習を中止または交流内容を変更して実施。

ア ねらい 交流及び共同学習において、ボッチャ等ニュースポーツをとおし、地域との交流を図る。

イ 実践内容

(ア)ボッチャをとおした交流及び共同学習における実践

阿南支援学校 (11月実施、中学校との交流)

地域の中学校と、ボッチャ活動をとおした交流及び共同学習を行った。ボッチャのルール説明後、チームに分かれて、ゲームを行った。初めて体験する中学生もいたが、ルールも簡単であり、戸惑うことなく活動ができた。ゲーム中には、相談して順番を決めたり、応援したり、一緒に喜んだりする様子が随所に見られ、互いに交流を深めることができた。



池田支援学校 (12月実施、障がい者福祉施設利用者の方との交流)

近隣の障がい者福祉施設利用者の方とボッチャをとおして交流を行った。生徒は日頃から授業で取り組んでいるため、緊張することなく、活動に参加できた。また、交流先においてもボッチャに取り組んでおり、互いに日頃の練習の成果を披露できる機会となり、白熱した試合展開でゲームを楽しみながら、交流を深めることができた。



鴨島支援学校 (2月実施、県内企業とのオンライン交流)

県内企業の方とターゲットボッチャを通じて、オンライン交流を実施した。学校、訪問生宅、企業の3カ所をオンラインでつなぎ、対戦した。

初めての方でも親しみやすい競技であるため、児童生徒と一緒に盛り上がることができ、同じ活動を共にすることで、児童生徒とのコミュニケー



ションのきっかけとなるとともに、学校や子どもたちの様子をより一層知ってもらう機会となった。

また、オンラインで行うことでコロナ禍においても安心して交流を深めることができた。



(イ) ニュースポーツをとおした交流及び共同学習における実践

阿南支援学校（11月実施、中学校との交流）

地域の中学校とフライングディスクをとおして交流を行った。団体戦によるゲームを実施したが、障がいの有無に関わらず、同じルールで活動を楽しむことができた。また、互いに「すごかったね」などの声かけや拍手による応援が生徒間で自然にできていた。



池田支援学校（12月実施、障がい者支援施設との交流）

近隣の障がい者支援施設の利用者の方とフライングディスクで交流を行った。双方3チームずつチームを編成し、すべてのチームと対戦できるようにすることで、活動を通じて全員と交流を図ることができた。

地域の方もニュースポーツに取り組んでいることを生徒が知る機会となり、今後の活動への意欲につなげることができた。



国府支援学校（12月実施、県内大学）

徳島県内の大学生とカローリングで交流を行った。カローリングの紹介やルール説明の後、交流ゲームを行った。ルールがわかりやすく、誰もがすぐにできるため、苦手意識を持つことなく取り組み、交流の場が和んだ。また、ゲームの流れにより、作戦会議をしたり、結果を共有したり、コミュニケーションを自然にとることができた。



(ウ) 成果と課題等

<成果や期待される効果>

- ・障がいの有無に関わらず、同じルールで取り組むことができ、技術差も少ないため、誰もが平等に活動を楽しむことができた。
- ・ゲーム性のある活動であるため、生徒同士が主体的に作戦を立てたり相談したりするなど、活動を介してコミュニケーションのきっかけが設けやすく、自然に交流ができていた。
- ・日頃の学習活動で取り組んでいるボッチャやニュースポーツを取り入

- れることで、児童生徒が自信を持って参加することができた。
- ・オンラインの活用によりコロナ禍においてもスポーツを通じた交流を図ることができた。
 - ・どの競技も投げ方や狙い方を互いに教え合ったり、チームメイトを応援したりするなどの機会が多く、混成チームにすることで、生徒同士が関わりを深めやすい。
 - ・障がい者スポーツを共に行うことをとおした体験的な活動により、相互理解につなげることができる。

<課題>

- ・取組を推進していくために、用具や個々の実態に応じた補助具のさらなる整備が必要である。
- ・ニュースポーツについてルールを理解した指導者の養成に係る研修支援や講師派遣など指導者サポート体制の充実が求められる。
- ・特別支援学校だけでなく、幅広い地域へのニュースポーツの普及促進が必要である。
- ・地域との交流を促進していくためには、関係機関との連携や地域におけるニュースポーツの取組等に関する情報提供が必要である。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、交流及び共同学習の活動内容に制限を受けがちである。コロナ禍においてニュースポーツ等による交流及び共同学習を推進するためには、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じた安心・安全な実施方法について検討する必要がある。

<考察>

平成 29 年度から県内の特別支援学校で取り組み始めたボッチャは、学校において障がい特性や児童生徒の実態に応じた工夫や配慮が講じられながら、発展的に取組が進められてきた。その結果、今年度は初めての「特別支援学校対抗ボッチャ大会」が開催され、多くの学校から参加があり、特別支援学校においてボッチャが広く普及してきたことがうかがえる。また、交流及び共同学習における活動として、ボッチャ競技を取り入れた学校や今年度はコロナの影響により実施できなかったが、取り入れる予定であった学校は多く、取組の拡充につながってきている。これは、障がいの種類や程度に関わらず、誰もが楽しめるボッチャの良さが受け入れられていることやコロナ禍においてもオンラインを活用した「ターゲットボッチャ」の独自の取組がボッチャにおける交流及び共同学習をより一層促したと考える。なお、ボッチャ競技については、今夏開催されたパラリンピックでの日本選手の活躍で注目を集めたことにより、地域の小学校や中学校においても興味関心が高まり、普及したことも大きい。

ニュースポーツについては、各学校において、児童生徒の実態に応じた取組がなされており、誰もが楽しめ、参加しやすい活動を取り入れることにより、活動の機会や参加者が増え、交流の推進が図られると考える。しかしながら、取組を推進していくためには、必要な用具の整備や指導教員の養成、地域におけるニュースポーツの普及など課題も挙げられており、関係機関や地域の関係クラブやスポーツ団体等との連携を図りながら進めていくことが必要である。

今後は特別支援学校の児童生徒等が生涯を通じて、スポーツを楽しみ、活動に取り組める環境づくりやスポーツ活動をとおした地域とのつながりの場の拡充を目指し、将来の豊かな生活へとつなげられるようボッ

チャをはじめとしたニュースポーツやアダプテッドスポーツの更なる普及推進に取り組んでいきたい。

- (5) 視覚障がいのある児童生徒、聴覚障がいのある児童生徒のスポーツ交流会
ア ねらい 他機関との連携により、スポーツ活動の充実と地域との交流を図る。
イ 実践内容

(ア) 徳島視覚支援学校 (12月実施、対象：中学部生徒4名、教員4名)

徳島県内のサウンドテーブルテニスクラブチームで活動している選手を招聘し、選手3名と生徒4名で時間の許す限り、ゲーム形式での活動を行い、交流を図った。



<成果>

生徒数の減少により、普段の授業では、同じメンバーによる試合の繰り返しになりがちである。交流会では、初めての対戦相手との試合に新鮮さを感じながら、活動に取り組めた。

体験した生徒からは「貴重な体験ができた」、「今日の試合で学んだことを次からの授業で生かしていきたい」など、サウンドテーブルテニスの選手として活躍する方々との交流で活動への新たな刺激を受けることができた。

<課題>

在籍生徒の障がいの重度重複化により、競技スポーツに取り組むこと自体が難しくなっている。競技スポーツだけでなく、重度重複障がいの子どもたちも楽しむことができるスポーツ活動を実践している他機関と連携を図り、多くの幼児児童生徒がスポーツ活動に参加・体験できるよう取り組みたい。

(イ) 徳島聴覚支援学校 (9月～12月実施、対象：中学部2名、高等部5名)

卓球部生徒7名が、徳島県卓球協会理事長の藤浦哲夫氏より、1ヵ月に2～3回程度(合計8回)、1時間の専門的な技術指導を定期的に受けた。



<成果>

専門的な視点からの指導を継続的に実施することにより、チームとしての課題や目標が明確になった。生徒それぞれが「サーブの強化」というチーム目標を共通理解して取り組むことで、チーム全体のレベルアップにつなげることができた。

また、新しく導入した卓球機材の効果的な練習方法の取り入れをはじめ、生徒には実演や生徒とのラリーを混じえながら、生徒に応じた視覚的にわかりやすい解説と体験的な指導により、どんなプレイがいいプレイであるかを生徒が具体的に理解することができた。

生徒からは、「サーブの仕方や、サーブを出した後の3球目を打つ準備の大切さがわかった」、「身振りや実演があって、説明がよくわかった」等の意見が聞かれた。専門的な視点から継続して指導いただくことにより、充実した活動となった。

<課題>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各種大会が中止となり、練習の成果を発揮する場や交流の機会が減少している。コロナ禍における新たな大会やイベント等の企画・開催の工夫が必要である。

2 芸術・文化活動

(1) 専門家との連携とアート作品制作

ア ねらい 外部専門家との連携によるデジタルアート等の作品制作をとおして児童生徒の芸術的才能の開花を促す。

イ 実施校 徳島聴覚支援学校、板野支援学校、鴨島支援学校、ひのみね支援学校、みなと高等学園

ウ 講師 (ア)四国大学 生活科学部
人間生活科学科 デザインコース 准教授 上野 昇 氏
(徳島聴覚支援学校、板野支援学校、鴨島支援学校、ひのみね支援学校を担当)

(イ)イラストレーター 柿本 芳枝 氏
(みなと高等学園を担当)

エ 期間 令和3年10月から令和4年2月まで

オ 場所 各特別支援学校及び四国大学

カ 活動内容

(ア)徳島聴覚支援学校 (1月に1回実施、場所：四国大学、対象：高等部生徒6名)

「VR落書きにチャレンジ」

Meta Quest2 という VR ゴーグルと Multi Brush という仮想空間にペイント可能なアプリケーションを使って、空間の制限なく、想像力を働かせて、無意識または自由なテーマでバーチャル空間



に光・色・点・線・形を描き、作品を制作した。また、Multi Brush の特徴的な仮想空間に同時に入り、絵を共同で描くことも行った。その体験中に海外の方が仮想空間に入ってきたことも経験することができた。

(イ)板野支援学校 (2月に1回実施、場所：板野支援学校、対象：高等部7名)

「アイビスペイントを使用した作品制作」

第8回デジ絵コン全国高校生塗り絵コンテストの「写楽『三世大谷鬼次の江戸兵衛』」の線画にアイビスペイントを使った塗りつぶしツール・ブラシツール等の塗り方を指導してもらった。Zoomによる授業ではあったが、生徒にもわかりやすい内容であり、ほとんどの生徒が一人で制作を進めることができた。



(ウ)ひのみね支援学校 (10月～1月に3回実施、場所：ひのみね支援学校、対象：小・中学部の児童生徒)

「3Dプリンタを使用した作品制作」 小学部2組 (2名)

上野先生よりスタンプができるまでの説明を受けた。事前に児童のイラストをデータで送り、それを加工してスタンプにした。

その後、児童がスタンプを使った活動に取り組んだ。スタンプの顔を見せると、とても嬉しそうに笑い、台紙に押したあともスタンプされた自分の顔を見つめていた。



「3Dペンを使った名前スタンプの制作」 小学部3組 (5名)

3Dペンを使って制作を行った。上野先生の説明を聞き、デモンストレーションで花を作る様子を見たり、それを飾る方法を聞いたりした。その後、実際に3Dペンを使って制作した。フィラメントの色は20色以上あり、選ぶ楽しさもあった。児童は、ボタンを押しながらペン先から出てくるプラスチックに注目したり、ペンを握って前後に動かしたり、冷めて固くなったプラスチックを触ったりとそれぞれに活動することができた。



「名前スタンプの制作」 中学部6組（3名）

各自の名前が入ったスタンプを制作した。
3Dプリンタで制作したスタンプを握り、教員と一緒に押すことができた。



(エ) 鴨島支援学校（11・12月に2回実施、場所：鴨島支援学校、
対象：高等部生徒2名）

「ピクトグラム制作」

今回の制作活動についての概要や東京オリンピック2020やSDGsに使われているピクトグラムについての講義を受けた。その後、校内のピクトグラムを歩いて探し、場所や効果を確認した。iPadアプリ「ピクトグラムメーカー」を使用して、美術室と防災用品置き場のピクトグラムの制作を行った。デザインしたピクトグラムはカッティングマシンで出力し、シールにして貼り付けることができるようにした。



(オ) みなと高等学園（11月～2月に2回実施、場所：みなと高等学園、
対象：生徒33名）

「ハナミズキをテーマとした作品制作」

柿本氏と連携し、ハナミズキをテーマとしたデジタルアート作品や手工芸作品、工業製品の制作を行った。主として、三つの活動を実施した。一つはハナミズキの装飾美術について情報デザイン科1年8名が取り組んだ活動（Fig.1）である。与えられたモチーフをどう表現するかについて、プロのアーティストと自分を比較することによって学んだ。二つは、ハナミズキの生地を染色する活動（Fig.2）である。複雑な作業工程をこなすなかで、学園の目標である職業的自立へと繋げることができる活動になることが示唆された。三つは、製作した生地を使った手工芸品の製作である（Fig.3）。BtoBを経てCへと繋げる製品開発を担うことによる、生徒の意欲向上は顕著であった。

また、バッグやタペストリーなどの手工芸品（Fig.4）、ゴム印や印刷物などのデジタル処理された工業製品（Fig.5）を制作した。



Fig.1



Fig.2



Fig.3



Fig.4



Fig.5

キ 成果と課題

(ア)VR アート

- ・全員が短時間で Multi Brushu の基本的な動作を覚え、仮想空間の特性をいかし、立体的な絵を描くことができた。
- ・今後、取組を発展させ、仮想空間の中で共同作品を作ることができるようになれば、生徒の可能性を広げることができると感じた。
- ・主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的な映像メディア表現を追求するためには時間がかかる。

(イ)3D プリンタ等による作品制作

- ・3D ペンにセットする前のフィラメントと、3D ペンから出てきたフィラメントでは形が変化する。その様子を見たり触ったりして、違いを感じることができた。
- ・3D ペンのボタンを押しながら動かすという二つの動きを同時にすることが難しいため、部分的に教員が支援を行いながら実施した。
- ・できたスタンプを作品や持ち物等に気軽に押して活用することができた。

(ウ) アイビスペイントを使用した作品制作

- ・リモートによる授業ではあったが、専門家に適切な準備をしてもらうことで、スムーズに取り組むことができた。
- ・普段の授業にも応用できるような活動内容であり、タブレットを使用した活動ができると感じた。
- ・リモートができる制作活動を検討し、内容を広げていきたい。

(エ)ピクトグラム制作

- ・専門家から直接指導を受けられること、また、参考作品を見ることができたことは、生徒にとっても教員にとっても有意義な活動であった。
- ・カッティングマシンの調整が難しかった。

(オ)ハナミズキをテーマとした作品制作

- ・活動を通して、学園の教育資産である人材、教育課程や施設などを再確認することができ、生徒の学園への帰属感の高揚に貢献した。

児童生徒の感想

「VR アート」

- ・ 普段できない体験ができてよい経験となったと思う。
- ・ マルチプレイヤーモードで海外の方と繋がれることに驚いた。

「ピクトグラム制作」

- ・ iPad を使うのは難しかったが、自分の考えたピクトグラムが機械でカットされたことに驚いた。

「アイビスペイントを使用した作品制作」

- ・ 自由に色を変えていくことができ面白かった。
- ・ コンテストに応募してみたいと思った。

「ハナミズキをテーマとした作品制作」

- ・ ハナミズキのイラストは、雨っぽく水のようなデザインにしたことや白い花が小松島に合っていてきれいで良かった。
- ・ シルクスクリーンをするのが初めてでとても楽しかった。

ク 考察

これまでの取組において、児童生徒からは、自分がデザインしたものが作品となる喜び、新たな手法を体験する驚き、友だちと協同して制作する面白さ等の声が聞かれた。制作過程そのものを楽しむとともに、作品の完成により達成感も味わうことができた。

今後の作品制作について、教員からは、学校だけでは用意できない様々な素材に触れて作品作りに取り組みたい、チームラボが行っているようなプロジェクトマップングを使ったデジタルアートの指導を継続して受けたい等の声がある。従来からの手法である絵画や立体作品等に加えて、児童生徒の豊かな発想を具体化していくことができる作品制作に向け、今後もデジタルアート等の専門家と連携を図り、幅広い制作活動を展開していきたい。

(2) 作品制作をとおした地域との交流

ア ねらい アート作品制作をとおして、地域との交流を図る。

イ 実践内容

(ア) 鴨島支援学校（7月～9月、小学校と交流・共同制作）

「ふれあい交流作品展に向けて共同作品を制作する」

両校の児童一人一人が卵のパックに、それぞれが考えた虹の色の素材を詰め、虹となるパーツを作った。また、いろいろな色を使った手形を作り、作品の素材とした。飯尾敷地小学校4年生の児童が、二つ

の模造紙に自分たちの作った素材を貼り付けて作品のベースを制作した。そして、リモートで本校の児童が制作した素材を貼り付け、完成する過程を共有した。できあがった作品は、本校のホームページ上で発表した。



<成果>

- ・重度重複障がい児にも取り組みやすい活動であった。
- ・一人一人が作ったパーツを交流校の児童が貼り付け、ファンタジックな虹の架かった野原ができた。その様子をリモートで共有し、お互いに喜びや達成感を感じることができた。
- ・今回2枚で一つの作品となるようになっており、1枚ずつを両校に掲示している。作品を通して常に交流校を感じることができる絆のような作品となった。

<考察>

作品のやりとりを通じて、互いに理解を深め、楽しく交流することができる取組である。これからも、オンラインや交流の仕方を工夫することによってさまざまな作品制作へチャレンジすることが可能である。

(3) 地域におけるアート展の開催

ア ねらい 地域での作品展示をとおして、地域に向けた発信について検討を行う。

イ 実践内容

(ア) 徳島聴覚支援学校

- ①期 間 令和4年1月24日～2月7日 小学部
- ②展示場所 キョーエイ沖浜店 店舗入り口
- ③成 果 作品の搬入や展示中に、利用者から「かわいらしく作れていますね」など温かい言葉をかけてもらった。また、校外で作品展示の機会があったことは、学習場面における児童の新たな作品の制作意欲につながった。



(イ) 国府支援学校

①期 間

令和4年1月14日～24日

②展示場所

キョーエイ国府店 出入口

③成 果

買い物に来た地域の方にも気軽に作品を見ていただくことができた。普段生徒の作品を見る機会のない方にも本校の取組を知っていただくよい機会になった。生徒からは「買い物に来たたくさんの方に作品を見てもらえてうれしい」等の感想が聞かれた。



(ウ) 池田支援学校美馬分校

①期 間

令和4年1月13日～1月27日

②展示場所

道の駅「みまの里」観光交流センター

③成 果

地域の方に美馬分校の学習内容や生徒の作品を具体的に知っていただく機会となった。生徒達が、クラスやグループに分かれ、作品やパネル作り、搬出入作業を行った。搬出時には、来場者シールを見て、多くの方に来ていただいたことを喜んでいて。生徒から「展示の時に押しピンが何回も飛んでいって大変だった。でも、みんなと協力したから最後はうまく飾ることができてよかった」「色々な人に見てもらえるのがうれしい」等の感想が聞かれた。



(エ) 阿南支援学校

①期 間

令和3年12月23日～令和4年1月6日

②展示場所

キョーエイ上中店

③成 果

冬休み期間中のため、より多くの児童生徒や保護者に見に来てくれたり、地域の方々に学校や生徒の様子を知ってもらったりすることができた。



(オ)池田支援学校

①期 間

令和3年12月16日～令和4年1月16日

②展示場所

キョーエイ脇町ミライズ店

③成 果

「感想ノート」にも、買い物に訪れた方からコメントをいただいたり、保護者から連絡帳に感想の記入があったりするなど好評であった。また、参加した児童のうち、美馬区域を生活圏とする児童にとっては、日頃から馴染みのある店舗で作品を展示することに喜びを感じた。



(カ)みなと高等学園

①期 間

令和4年1月15日～23日

②展示場所

小松島ルピア店 コミュニティホール

③成 果

生徒の作品制作に対する興味・関心や意欲が高まった。保護者や地域の方々に本校の教育活動を紹介する機会となった。また、生徒から「家庭科の共同作品の作成では苦労したが、展示した作品を見て頑張って取り組んでよかった」「今回の展示会が開かれたことで、これまで色々な作品を制作したことにやりがいを感じた」等の感想が聞かれた。



ウ 考察

近隣の商業施設でのアート展開催は、作品発表の機会として児童生徒の意欲を高めるものであり、作品をとおして地域への理解啓発を図ることができる取組となっている。作品が展示されること楽しみにしている児童生徒が多く、自己有用感が高められる機会となった。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、文化祭の縮小等で

地域住民へ発信する場が少ない。地域のアート展での開催を楽しみにしている児童生徒や保護者等も多く、生徒の活動をみてもらう貴重な機会となっている。また、児童生徒による主体的な搬出入や展示作業等に取り組むことができた活動となった。特別支援学校の取組を発信する機会として、展示の期間・方法・児童生徒の参画等にさらに創意工夫を加え、今後も地域と関わりながら継続していくことができる取組である。

(4) 四国八十八ヶ所霊場札所でのお接待活動における作品の展示と配布

ア ねらい 特別支援学校の児童生徒が持つ技能や豊かな感性を生かした作品等を四国八十八ヶ所霊場札所でのお接待活動において展示したり、お遍路さんに配布したりすることとおして、各特別支援学校の特色ある取組の推進や児童生徒の豊かな表現力の向上を図るとともに、文化・芸術分野における障がい者の才能に対する理解と活躍の機会拡充を推進する。

イ 実施内容 四国八十八ヶ所霊場札所が近隣にある特別支援学校5校で、次のとおり実施。

学校名	活動場所	実施日	参加生徒数
板野支援学校	第三番札所 「金泉寺」	令和3年7月6日(火) 9:30~11:40	高等部7名
		令和3年11月16日(火) 9:30~11:30	高等部3名
国府支援学校	第十四番札所 「常楽寺」	令和3年6月17日(木)	高等部5名
		令和3年6月18日(金)	高等部5名
		令和3年10月21日(木)	高等部5名
		令和3年10月22日(金) 10:00~11:30	高等部5名
池田支援学校 美馬分校	第八番札所 「熊谷寺」	令和3年5月20日(木) 作品展示及び配布物設置 令和3年11月18日(木) 10:00~11:00	高等部6名
阿南支援学校 ひわさ分校	第二十三番札所 「薬王寺」	令和3年10月29日(金) 13:10~14:30	中学部、高等部 18名
鴨島支援学校	第十一番札所 「藤井寺」	令和3年9月30日(木) 作品展示及び配布物設置 令和3年10月21日(木) 13:45~14:45	高等部2名



鴨島支援学校



池田支援学校美馬分校



板野支援学校



阿南支援学校ひわさ分校



国府支援学校

(ア) 板野支援学校

牛乳パックをリサイクルした「しおり」や「はがき」縫製の技能を生かした「香り袋」、「マスク」を展示、配布した。また清掃の技能を生かし、境内の清掃活動も行った。



(イ) 国府支援学校

縫製の技能を生かした「コースター」、「ストラップ」、牛乳パックをリサイクルし、生徒がデザインした「しおり」や「メモ帳」、「封筒」をお遍路さんへ配布した。



(ウ) 池田支援学校美馬分校

生徒が縫製の技能を生かして製作した「コースター」「ランチョンマット」、「手ぬぐい」を納経所に展示、配布した。また、清掃の技能を生かし、手水場や参道の清掃活動も行った。



(エ) 阿南支援学校ひわさ分校

端材を利用して作成した木の箸置き、生徒が染め上げた「藍染めハンカチ」を展示、配布した。また、清掃の技能を生かし、境内の清掃活動も行った。



(オ) 鴨島支援学校

端材を利用して作成した「切り株コースター」、
「スマホスタンド」や縫製の技能を生かして制作した
「香り袋」、「エコティッシュケース」等を展示、配
布した。



ウ 成果と課題

昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍での活動と
いうこともあり、各学校ともお接待の活動を継続で
きる形態を企画しながら取り組むことができた。

感染状況が落ち着いているときは、例年通り感染
対策を行い、自分たちの作品を直接紹介しながら作
品の配布ができ、感染者数が増えたときは、納経所
に展示ブースを設けて、作品を自由に取っていただくスタイルに変更し、その
様子を現地と学校をリモートでつないで、間接的な交流を深めるなどの工夫を
し、特別支援学校の取組を県内外へ発信することができた。

また、お遍路さんから霊場巡りをされていて初めてお接待を受けたと喜んでく
れたり、生徒たちの活動に励ましをいただいたりすることで、児童生徒が達成
感や成就感を感じることができた。



(5) アート展の開催

- ア ねらい 県内と四国内の特別支援学校の幼児児童生徒のアート作品によるアート展を Web 上にページを開設して開催する。児童生徒の創作意欲の向上とアクセスしてくれた人に向けた情報発信を行う。
- イ 名称 第5回とくしま特別支援学校「きらめきアート展」
- ウ 参加校 県内の特別支援学校及び分校 12 校（鳴門教育大学附属特別支援学校を含む）、四国内の特別支援学校及び分校 7 校
- エ 日程 令和4年1月19日（水）～3月24日（木）
- オ 公開会場 <https://kirameki.tokushima-ec.ed.jp/>
- カ 展示内容 共同作品、個人作品あわせて 519 点
（絵画、立体、手工芸、エコ作品、デジタルアート、陶芸、木工作品等）
- キ アクセス数 30,876 回
- ク 同時期開催 とくしま共生アートプロジェクト事業「PICFA アートの仕事」展（徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター主催）

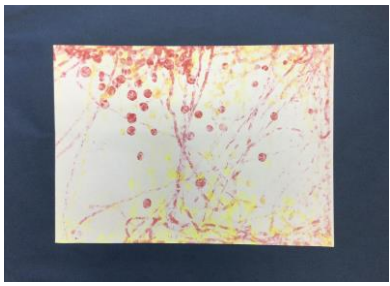


きらめきアート展チラシ



徳島新聞 (R4.2.7) 掲載記事

ケ 内容 (アート展出品作品の一部)

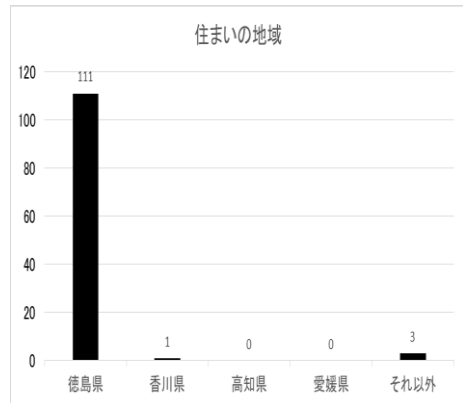
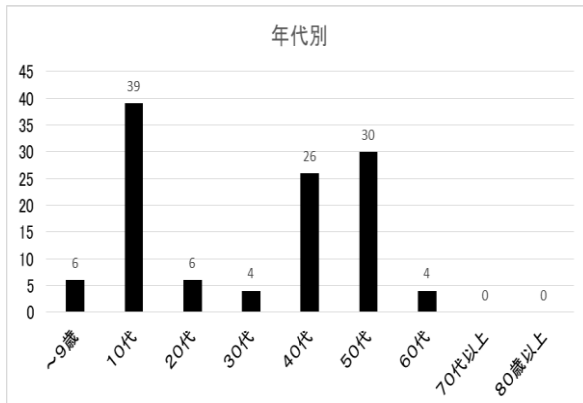


デジタルアート作品

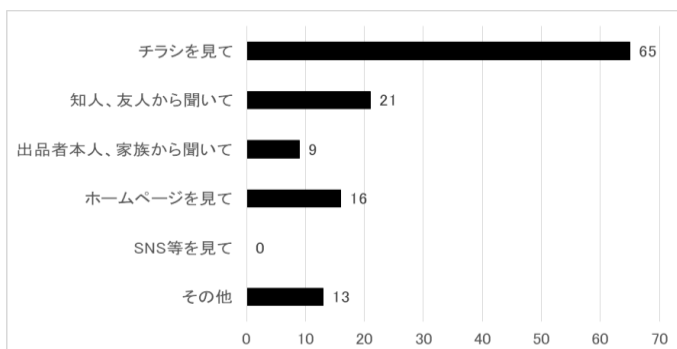


コ 閲覧者アンケート

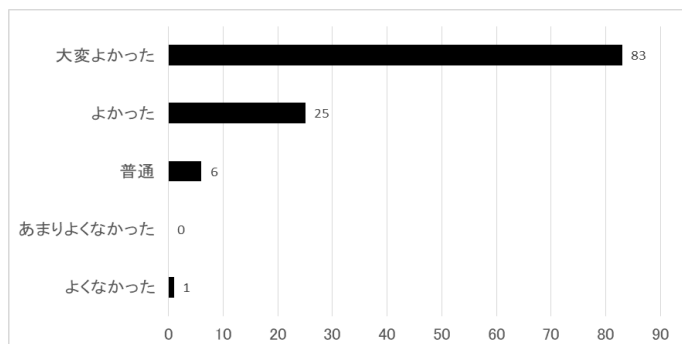
- (ア) 調査概要 期間：令和4年1月19日（水）から3月24日（木）まで
- (イ) 回答者数 115名
- (ウ) 回答者の属性



(エ) アート展の情報入手方法



(オ) 「きらめきアート展」の感想



サ 成果と課題

(ア) 成果

県内全ての特別支援学校 12 校と四国内の特別支援学校 7 校が参加となった。集まった 519 点の特色あふれる作品により、WEB 上にてアート展を開催することができた。県民の方々だけでなく、四国内にも広く特別支援学校の取組を知っていただくよい機会となった。

出品いただいた県外の特別支援学校

(香川県) 香川東部養護学校、善通寺養護学校

(愛媛県) しげのぶ特別支援学校

(高知県) 高知ろう学校、山田特別支援学校、

山田特別支援学校田野分校

高知若草特別支援学校

(イ) 課題

特別支援学校の作品や取組を発信する機会の拡充に向けて、実会場と WEB を併用した作品紹介の充実を目指し、さらに検討していきたい。

3 活動の成果と課題

本県の特別支援学校におけるスポーツ活動と芸術・文化活動の振興を図るため、本事業を実施した。令和2年度に引き続き、今年度についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、計画どおりに実施することができなかったが、令和2年度に検討、実施した開催方法等を今年度に活用することで、スポーツ活動、芸術・文化活動とも規模は縮小したが、取組を実施することができた。

スポーツ活動では、今年度もオンラインを活用した「ターゲットボッチャ」を実施し、コロナ禍における時間や距離の制約を超えた新しい形の交流大会を開催することができた。また、その成果を生かすことで、「とくしまスポーツ交流大会」や「第1回特別支援学校対抗ボッチャ大会」を開催し、他県や障がい者福祉施設からも参加があり、交流を深めることができた。この点については、今後のスポーツ活動において大きな可能性を感じることもできた。しかし、オンラインでのスポーツ活動については、通信機器の準備や機器操作等において技術を要するところがあり、円滑な運営をするためには、事前に活動に関わる方々と共通理解を図り、リハーサルをしておく必要があるなどの課題も見つかった。課題解決に向けた検討を行いつつ、オンラインで実施可能な競技を選定したり、開発したりしていくことも重要であると考える。

芸術・文化活動においては、専門家の指導により、児童生徒の豊かな発想によるアプリやソフトを使ったVRアートや3Dアート、アイビスペイント等の新しい技術を取り入れたデジタルアート作品制作に取り組み、自由に表現する楽しさやその面白さを感じることもできた。

作品作りをとおした交流活動については、コロナ禍のため、多くの学校において計画どおり実施ができなかった。このような状況の中、作品のやりとりや作品制作の様子をオンラインで共有することによって共同作品を仕上げるなど、工夫を凝らした方法で交流を深めることができた。好事例を共有し、学校間及び地域との交流のさらなる拡充を図っていきたい。

さらに、令和3年度はアート展について、実会場とWEB会場のハイブリッド開催を計画していたが、コロナ禍により実会場が中止となり、WEB会場のみ実施となった。WEB会場においては、県内全ての特別支援学校と四国内の特別支援学校7校のアート作品が一堂に会し、多数の方々にアクセスいただくことができた。障がい者アートに触れていただく機会を創出することができたが、実物の作品の良さを伝えきれない難しさもあるため、今後も実会場とWEB会場のハイブリッド開催について検討していきたい。

スポーツ活動、芸術・文化活動とも、コロナ禍での厳しい状況の中での取組であったが、中止とせず、開催方法や開催規模等を工夫することによってこれまでの取組を継続できた。各大会やイベントの参加者からの声から、取組を継続することの大切さ、児童生徒が活躍・自己表現できる機会や場の重要性を改めて考える機会となった。

2021年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、障がい者スポーツや芸術に注目が集まった。特別支援学校が、これまで培ってきた成果や整備された環境等については、この事業が終わった後も、障がいのある人々が生涯をとおしてスポーツ活動や芸術・文化活動を楽しむことのできるレガシーとして活用しつつ、共生社会の実現に向けた取組を推進してまいりたい。

令和3年度 スポーツ庁委託事業

Special プロジェクト 2020

(全国的な祭典の実施事業)

特別支援学校「みんなが主役」きらめき事業

令和4年3月31日発行

徳島県教育委員会特別支援教育課